



井伊直弼の平和外交

彦根ボランティアガイド協会
宮下 哲

井伊直弼の平和外交

なぜ日本は幕末に
対外戦争の危機を防ぐ
最良の選択ができたのか

彦根ボランティアガイド協会
宮下 哲



**なぜ昭和の太平洋戦争は
回避できなかったのか**

**なぜ日本は幕末に
最良の選択ができたのか**

近代日本の外交の歴史

幕末の外交

黒船来航から日米修好通商条約まで

昭和初期の外交

満州事変から太平洋戦争まで

近代日本の歴史を決めた外国との交渉

幕末 徳川政権は
戦争を回避した



昭和の戦争は
なぜ回避できなかったか

軍部の暴走 ？

満州事変以降の日本の外交

(1931年)

1940年 **大東亜共栄圏**

第2次近衛文麿内閣「基本国策要綱」

アジア諸国が一致団結して欧米勢力をアジアから
追い出し経済的な共存共栄を図る政策

外務大臣松岡洋右の構想 → 松岡外交

松岡外交 はパワー外交を展開

松岡外務大臣 国際連盟で演説

国連による満州国の承認

1933年国際連盟脱退宣言 国民から熱烈な歓迎

国連が欧州中心へと変化 (国民的英雄)

国際法を無視した軍隊の行動———日中戦争

1940年日独伊三国軍事同盟 ドイツ戦勝のバスに乗り遅れるな

1941年4月スターリンと日ソ中立条約調印

スターリンの**おもわく**は条約調印により

日本は日米戦争を引き起こす

松岡外務大臣の選択ミス

三国軍事同盟に軍部は反対

英米とは敵対関係となり

石油などの戦争継続物資の不足

松岡外務大臣は

ソ連との国交調整により石油を輸入する

1939年日米通商航海条約の廃棄

1940年アメリカが石油の禁輸

1941年4月日ソ中立条約

1941年10月東条英機内閣

1941年12月7日真珠湾攻撃

昭和初期の外交 ⇔ **幕末の外交**

軍部暴走のイメージ → **パワー外交**を展開

三国軍事同盟を推進した外交の失策

アメリカの石油全面禁輸を招き

国力比10対1の戦い

**アメリカとの無謀な戦争を防げず
日本を不幸な戦争に導いた**

幕末の歴史を決めた外交

黒船（大砲装備）を所有しない日本

海軍力はゼロ

幕末にアメリカとの戦争を

防いだ外交政策

非戦論×攘夷論

時代が必要とした大老

A portrait of Arai Hakuseki, a prominent Japanese scholar and statesman. He is depicted from the chest up, wearing a dark, patterned kimono with a white collar. He has a serious expression and is looking slightly to the right. He is wearing a traditional Japanese headpiece (kanmuri) with a black top and a white band. A sword is visible at his waist. The background is a plain, light-colored wall.

井伊直弼大老

松岡外務大臣

国際連盟脱退
三国軍事同盟
大東亜共栄圏
日ソ中立条約

開戦を
回避できず

松岡外交
の政策



右洋 岡松 議参

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

井伊外交

アメリカの圧力に屈し
弱腰外交により
日本に不利な条約を
結んだ
世界の強国イギリス
や隣国ロシアより
アメリカを選択

松岡外交

国際連盟での満州国
承認の演説
国際連盟脱退(日本の
自立外交をアピール)
三国軍事同盟の推進
大東亜共栄圏の発案

井伊外交

平和外交

井伊大老は外交面では何も知らなかった

外国人排除する

強硬論の外交が多数

衆論に抗して毅然とした判断力

松岡外交

パワー外交

外交手腕が優れている
と評価された

国連脱退で英雄視され
個人の名声を優先

A portrait of Emperor Kammu, a prominent figure in Japanese history. He is depicted from the chest up, wearing a dark, patterned robe and a traditional Japanese headpiece (kanmuri) with a black feather. He has a serious expression and is looking slightly to the right. The background is a plain, light-colored wall. A yellow rectangular box with black text is overlaid on the lower part of the image.

外交政策の評価

直弼の歴史的評価

世論（天皇）を無視してアメリカの
圧力に屈して条約を調印した

直弼に対する評価



外交政策の評価



**なぜアメリカは
軍艦から大砲を撃つことなく
日本との交渉に臨んだ**

直弼の歴史的評価

**世論（天皇）を無視してアメリカの
圧力に屈して条約を調印した**

天皇や公家は外交という言葉を理解せず
「万国公法」(国際法)

明治4年(1871年)岩倉使節団(アメリカ)

全権委任状持参せず———外交知識不足

アメリカは 使節団と条約改正の交渉には応じず

アメリカは徳川幕府から明治天皇への政権交代は認める

米国公文書館所蔵

日米修好通商条約

条約調印は徳川幕府の
井上と岩瀬が署名

下田奉行(応接掛)

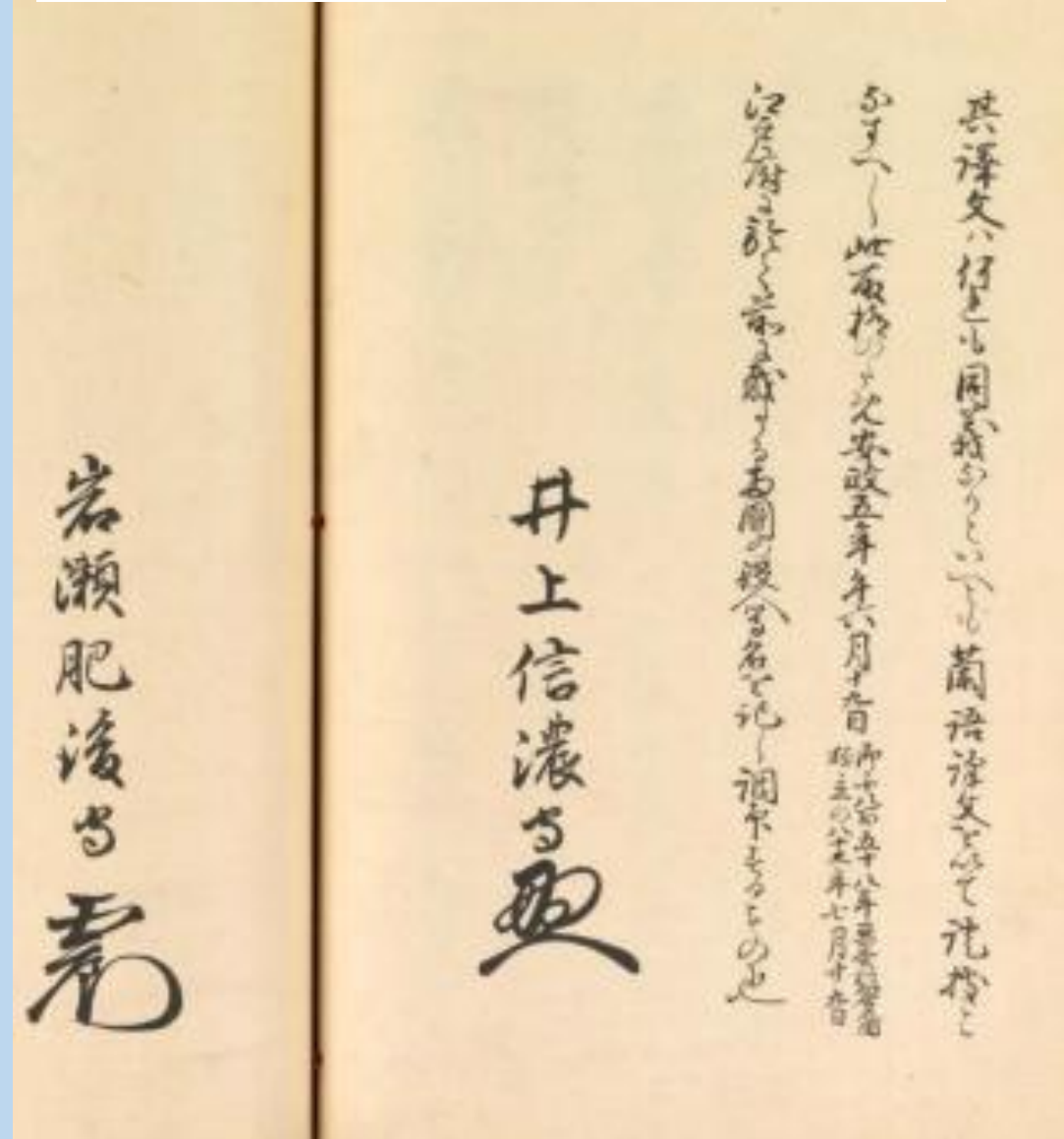
井上清直(いのうえきよなお)

目付(海防掛)

岩瀬忠憲(いわせただのり)

外交全権委任

初代駐日アメリカ総領事ハリス



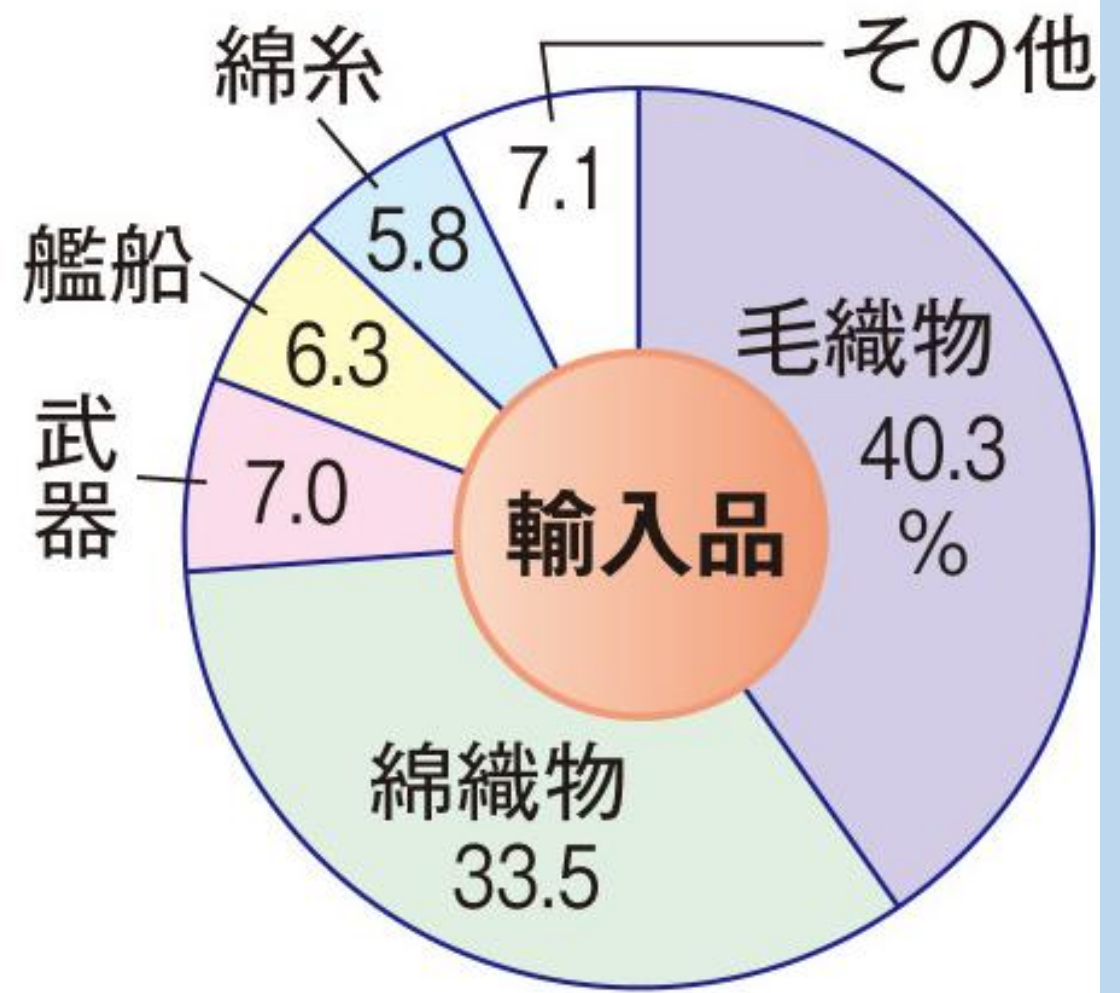
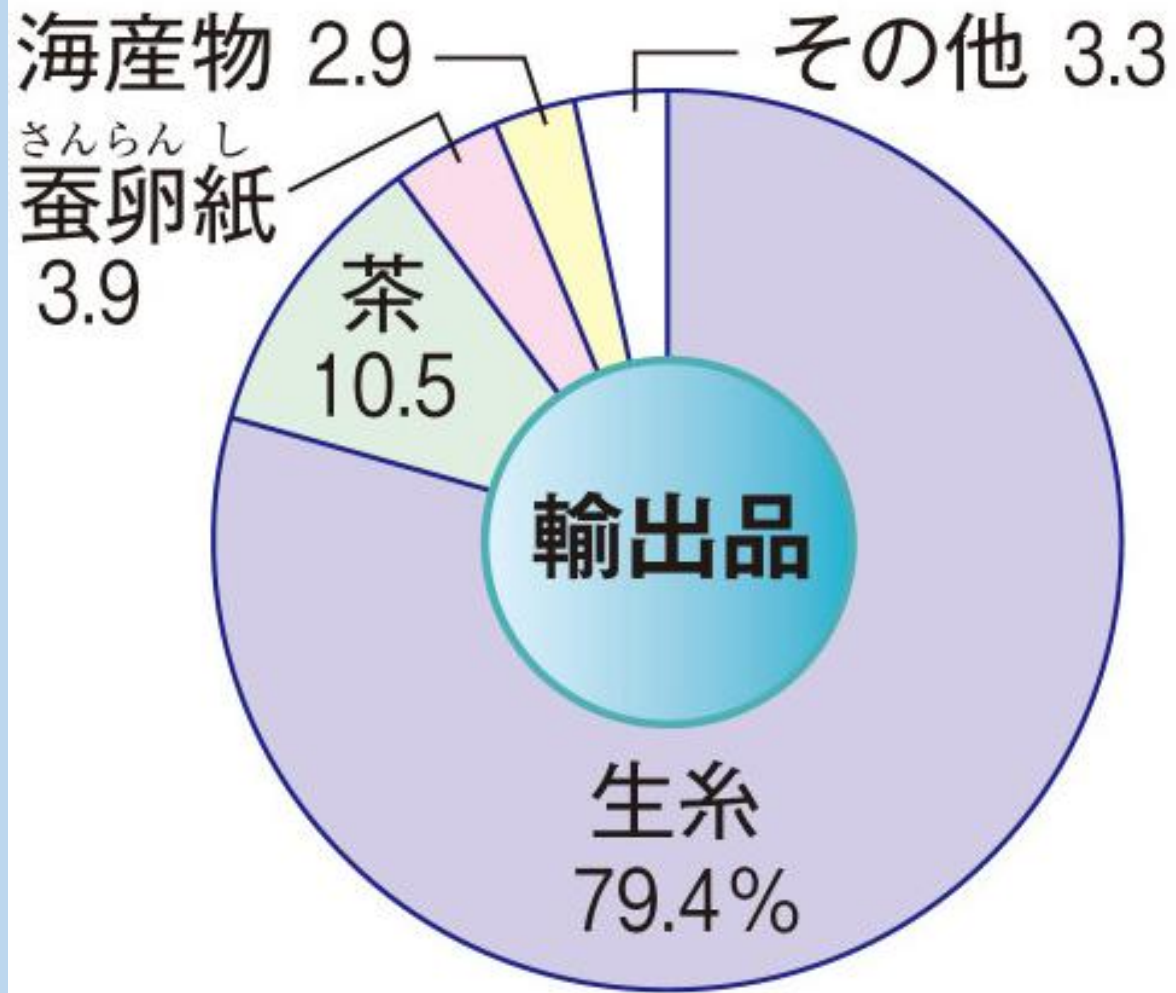
直弼の歴史的評価

直弼は積極的に対外政策を展開

貿易政策で---国を豊かにする

日本の将来---世論とは反対の政策

1865年（条約から7年後）



輸入品は毛織物・綿織物・武器・艦船(軍艦と船)
輸出品は生糸・茶・蚕卵紙(さんらんし)生糸は約80%

直弼は積極的に貿易政策を展開

お茶と生糸の輸出により

日本の近代化を図る

欧米諸国との国力差

国力を高める

日清戦争・日露戦争の勝利

井伊直弼が暗殺されるぐらい反対者が多く

天皇も反対していたから開国すべきで
なかった

国際社会の荒波に立ち向かった男



井伊直弼画像（清涼寺蔵）

井伊大老（直弼）歌碑

（淡海・近江）
あふみの海

磯うつ浪の いく度か

御世にこころを くだきぬるかな

安政七年（一八六〇年）正月（同年三月十八日に万延と改元）、直弼は、正装姿の自分の画像を御用絵師狩野永岳に描かせ、この自詠の和歌を書き添えて、井伊家菩提寺の清涼寺に納めたと伝えられる。

この歌は、琵琶湖の波が磯に打ち寄せるように、世のために幾度となく心を砕いてきたと、幕府大老として国政に力を尽くしてきた心境をあらわしている。

直弼は、この二ヶ月後の三月三日、江戸城桜田門外で凶刃に倒れた。

あふみの海
磯うつ浪のいく度か
御世にこころを
くだきぬるかな

井伊大老歌碑

開国を受け入れて

外国の技術を取り入れ近代化を図るべき

攘夷こそ正義であるという世論に押され

開国を唱える幕閣は少なかった

井伊直弼が冷静に状況を分析して

開国論を唱える

日本の「**国の将来像**」を描く

ペリー来航



ペリー浦賀来航図

ペリーうらがらいこうず



ペリー浦賀
来航図

彦根城博物
館蔵

大砲を装備 した軍艦

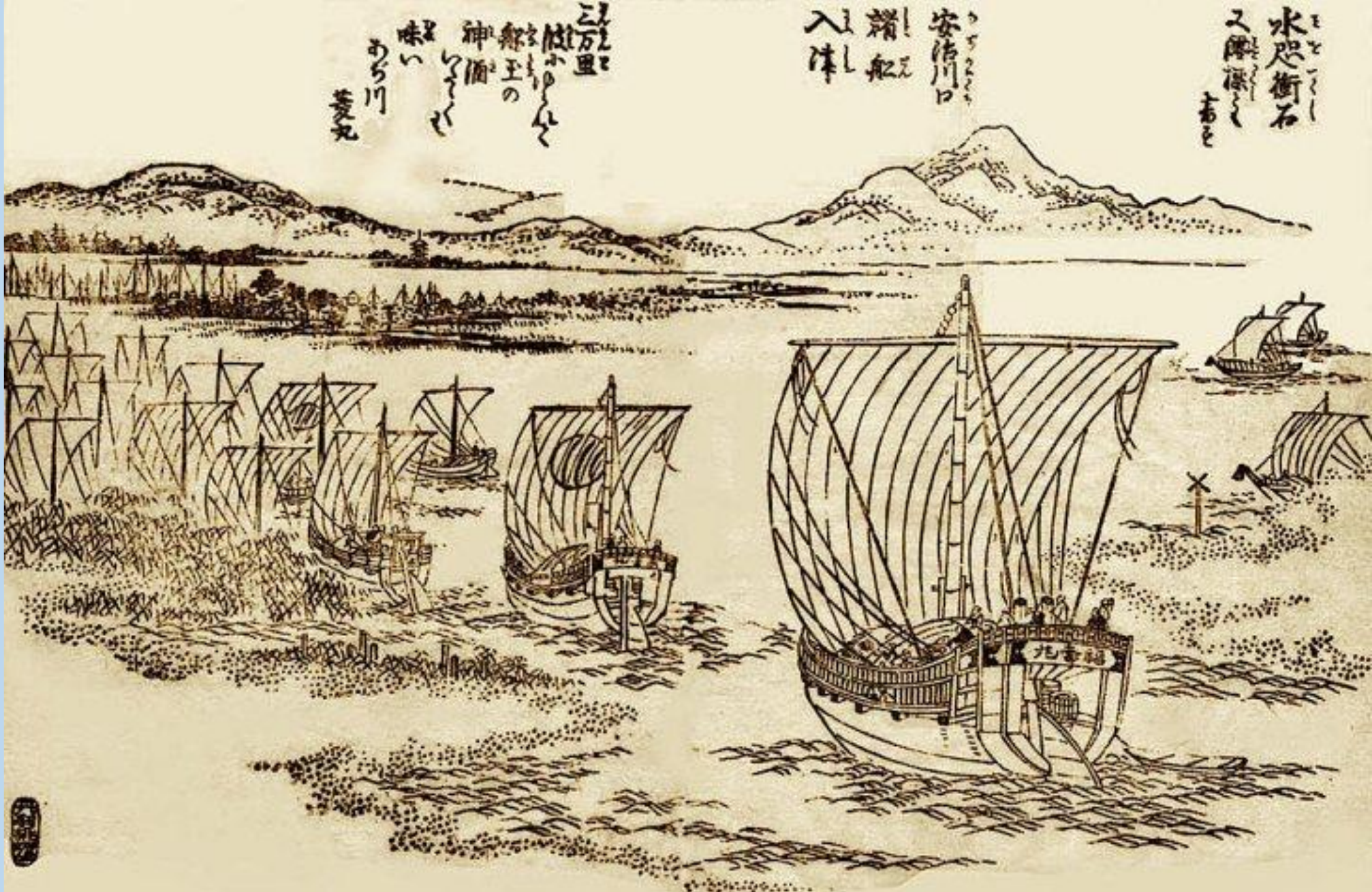


東京大学史料編纂所蔵

水戸衝石
又深瀬
あり

安清川口
入津
船

二万五千里
船
神面
味い
あり川
菱元



樽廻船、菱垣廻船

(国立国会図書館蔵)

ペリーはなぜ浦賀に来たか(長崎・大坂湾)



浦賀

江戸湾入口

黒船4隻で 100門の 大砲

江戸湾封鎖 江戸の経済 が混乱



ペリーの来航

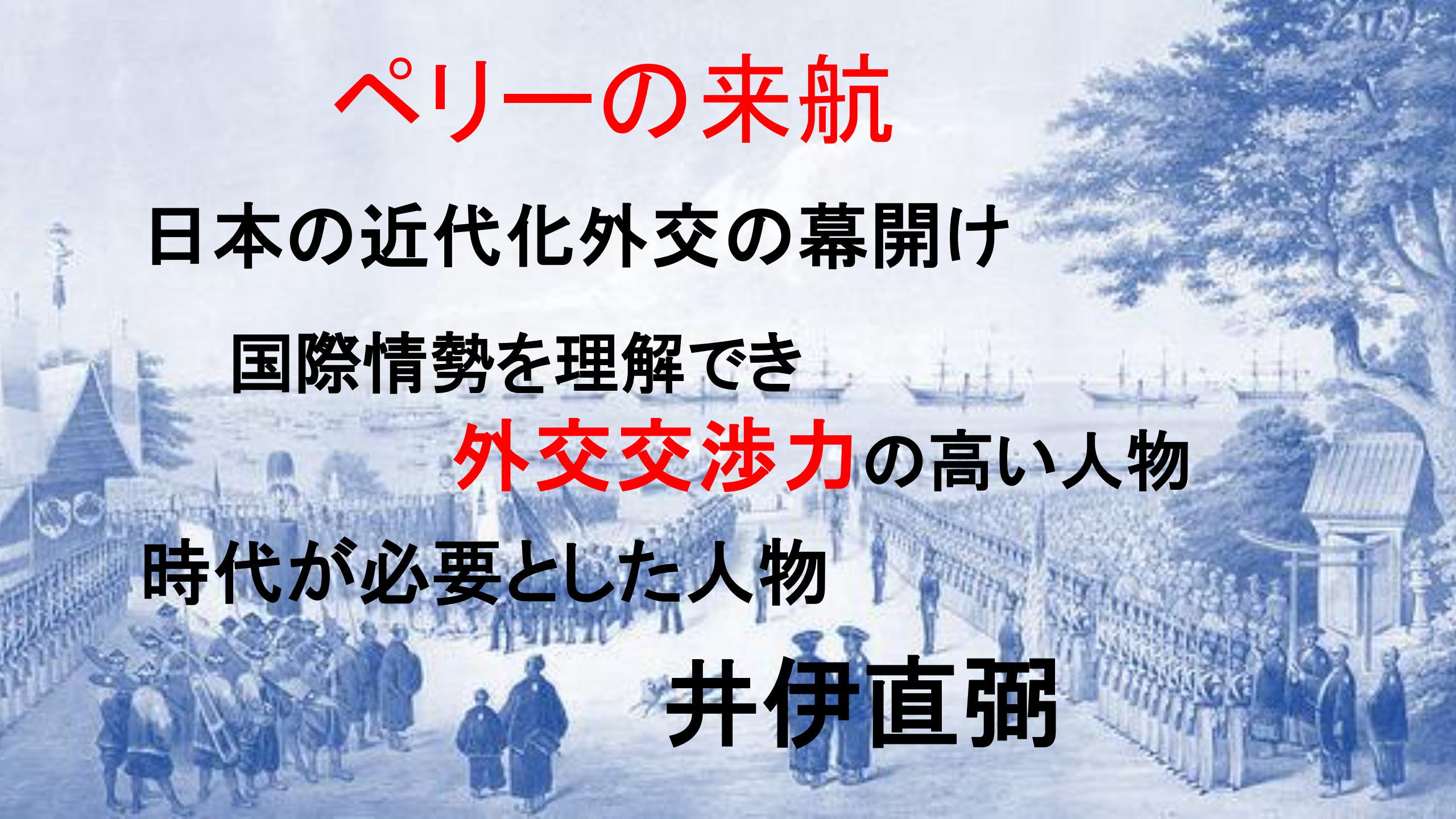
日本の近代化外交の幕開け

国際情勢を理解でき

外交交渉力の高い人物

時代が必要とした人物

井伊直弼



嘉永・安政年間の世相

(1847～1859)

- 開国論を唱えるだけで藩内の反発がある
- 幕閣体制の中で開国派は少数
- 朝廷内では世界地図に関心のある人物が少ない
- 攘夷が正義である



幕末の外国船の来航

ロシアは1797年択捉島(えとろふ)に侵入

1807年利尻島に侵入

イギリスはアヘンの輸出を希望

1804年ロシア使節レザノフ、長崎に来航 通商要求

1818年英船浦賀に来航 貿易を要求

1846年アメリカ艦隊司令長官ビッドル浦賀に来航
通商を要求

1853年ペリー来航

日本の選択

幕末欧米諸国の国が通商を求めて
来航する

日本は国際社会から
「どの国を選ぶか」
冷静な判断を求められた

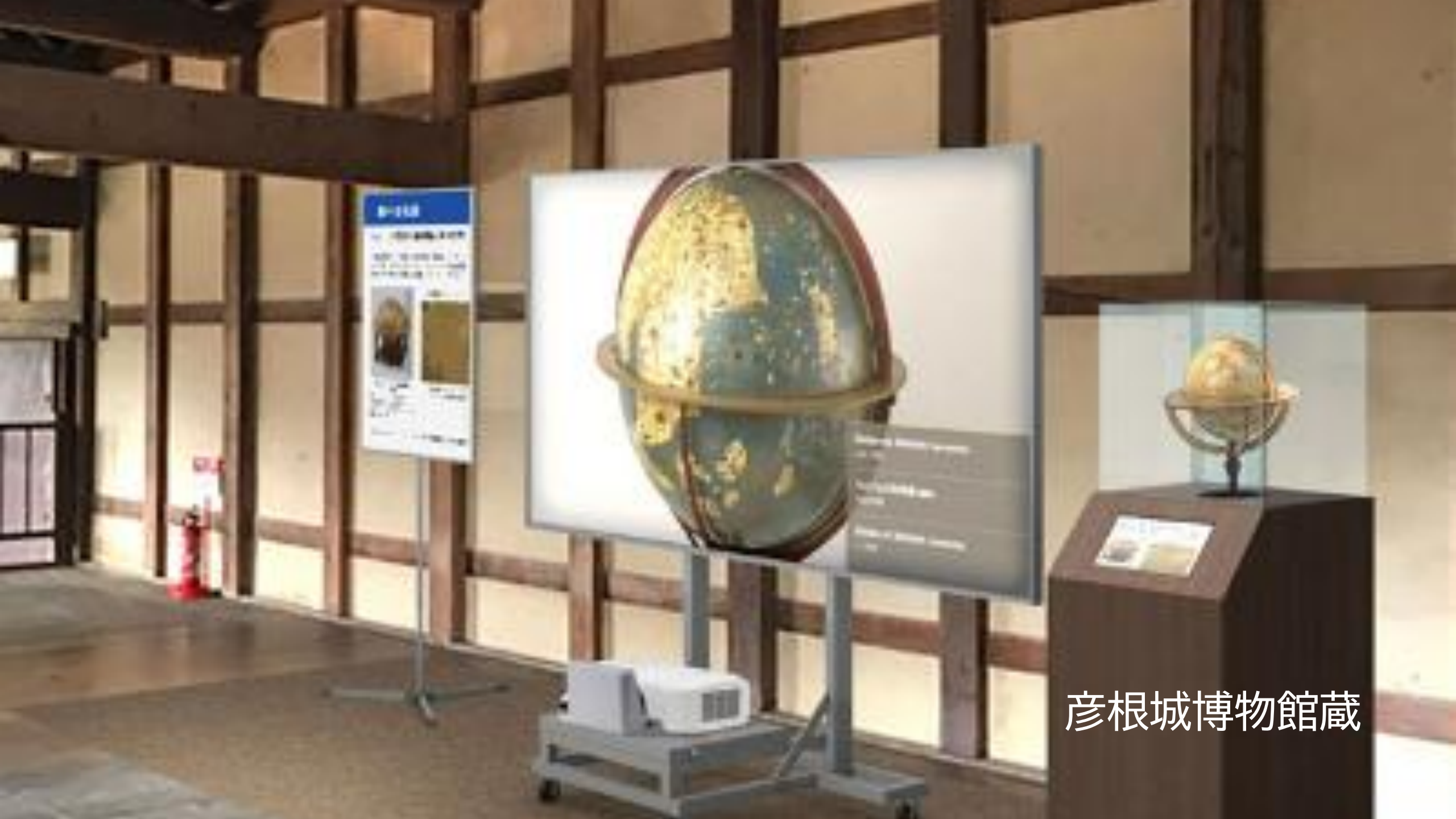
国境を接するロシアと最初に
条約を結べば、飲み込まれる。

しかし、最強のイギリスと最
初に結べば、潰される。

かといって、
オランダは弱すぎる…
どこか、適当な国はないか

そうだ





彦根城博物館蔵

40歳 日米和親条約(1854年3月)

老中阿部正弘とペリー

- 日米間に友好関係
- 難破した漁船員の保護
- アメリカ船に対する
石炭・水・食料の供給
- 下田**と**函館**の開港



貿易と宗教**の問題は除外**

幕閣の溜詰大名（井伊直弼）

1853年ペリー来航に際して

徳川斉昭のアメリカと和すべからずの意見と対立

井伊直弼は非戦論でアメリカとの友好

1854年ロシア艦隊が大坂湾に入る

この時天皇の彦根遷幸（せんこう）の考えあり

1858年松平慶永（よしなが）春嶽の大老起用に

将軍家定が反対して井伊直弼の大老就任が決定

1856年日本における初代米国総領事ハリス

下田玉泉寺

44歳 大老（1858年4月）

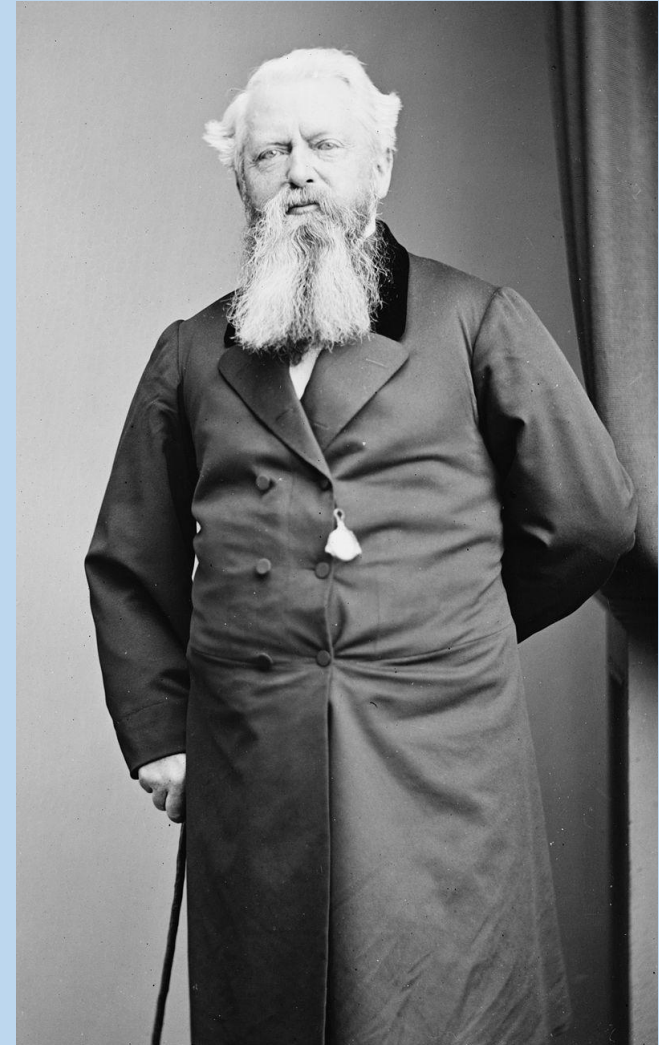
日米修好通商条約調印（1858年6月）

大奥と幕府保守派の支持基盤で
大老に就任

英仏連合軍が清国に勝利

ハリスより

米国との条約に調印すれば、米国が欧
米諸国と紛争を調停する



幕末の国際社会

欧米列強による アジア進出の時代



日米修好通商条約第2条

日本政府とヨーロッパのある国との間に紛争
が起ったさい、米国大統領は日本の要請に
応じて、友好的調整者として行動する
(Friendly mediator)

19世紀の国際状況で弱肉強食の原理が支配する時代
英米仏露の列強4か国との条約締結により

欧米諸国との友好条約を結んだこと 交渉で問題解決

国際的に日本の安全は保障された

井伊外交

アメリカの条約草案を暗記した井伊直弼

日米修好通商条約で日本の主張が入った点

アヘンの輸入の禁止（第4条） 米・麦の輸出禁止

港が江戸から距離のある横浜

外国人の遊歩地は7里四方の規制

外国居留地の規定

外国との紛争の時はアメリカが調停する

幕末の国際社会は

英・仏の侵略によるアジア諸国を植民地化
原住民の部族社会を破壊して植民地にする

日本の外交対策で ヨーロッパ人の支配を防いだ

**幕末にアメリカ・ヨーロッパと
外交交渉で戦争を防いだ**

老中堀田正睦の対外政策

外交という言葉をはじめて明確に使用
世界のなかで、「和親」も「戦争」もなく
「外交」を拒絶して独立、平和を
享受している国などどこにもない
もしも一国だけの戦いだと誤断して
各国との和親同盟を断れば
世界万国を敵として戦うことになり
いつまでも殺戮(かつりく)は続き



極東の一孤島としてもちこたえることは
困難となろう。

全世界を相手にして、無辜（むこ）の民を
永く塗炭（とたん）の苦しみに陥（おちい）らせ
ることにもなる。

もんじょ

『幕末外国関係文書』

日本開国の日米交渉

砲艦外交から ハリスの「平和的友好政策」

一度も大砲を日本人に向けて発することなく
日本との交渉を行った

アメリカは東洋諸国に対して領土的野心をもたない
英仏国のように武力行使を行わない

日本は東洋で最も優れた文明国である

安政3年(1856年)

老中首座阿部正弘は開国政策の開始

老中堀田正睦(まさよし)を選任 外相に任命

安政3年駐日総領事ハリス 下田に着任

日米和親条約により

下田玉泉寺にアメリカ領事館

将軍から井上・岩瀬に対して、ハリスとの交渉に関する**全権委任状**下付(かふ)された

日本の外交官（条約交渉能力・万国公法の知識）
井上清直（きよなお）・岩瀬忠震（ただなり）

井上清直———初代外国奉行で下田奉行と
なり岩瀬とともにハリスとの外交交渉にあたる
現在の外務大臣

岩瀬忠震———外交交渉の専門官として「海防
掛（がかり）」目付となりハリスの応接役となる
現在の防衛大臣

井上・岩瀬の日米通商条約交渉

1857年から1858年に

13回以上のハリスとの交渉

アメリカに譲歩できない2つ

- ◎ 京都で外国人が商売の場所として
認めない
- ◎ 国内における外国人の自由旅行
を認めない

京都は天皇が住んでいるところで商売の場所ではない

京都を外国人の常住地として開けば、外国人を嫌っている国内の人心を刺激して大変な反乱を起こすことになる

外国人が全国を旅行するのは、国内での安全が保障されず、お互いの親睦が失われる

幕府が外国人の商売を直接把握することが難しく、アヘンの密売を取り締まることができない

井上・岩瀬の日米通商条約調印

米国公文書館所蔵

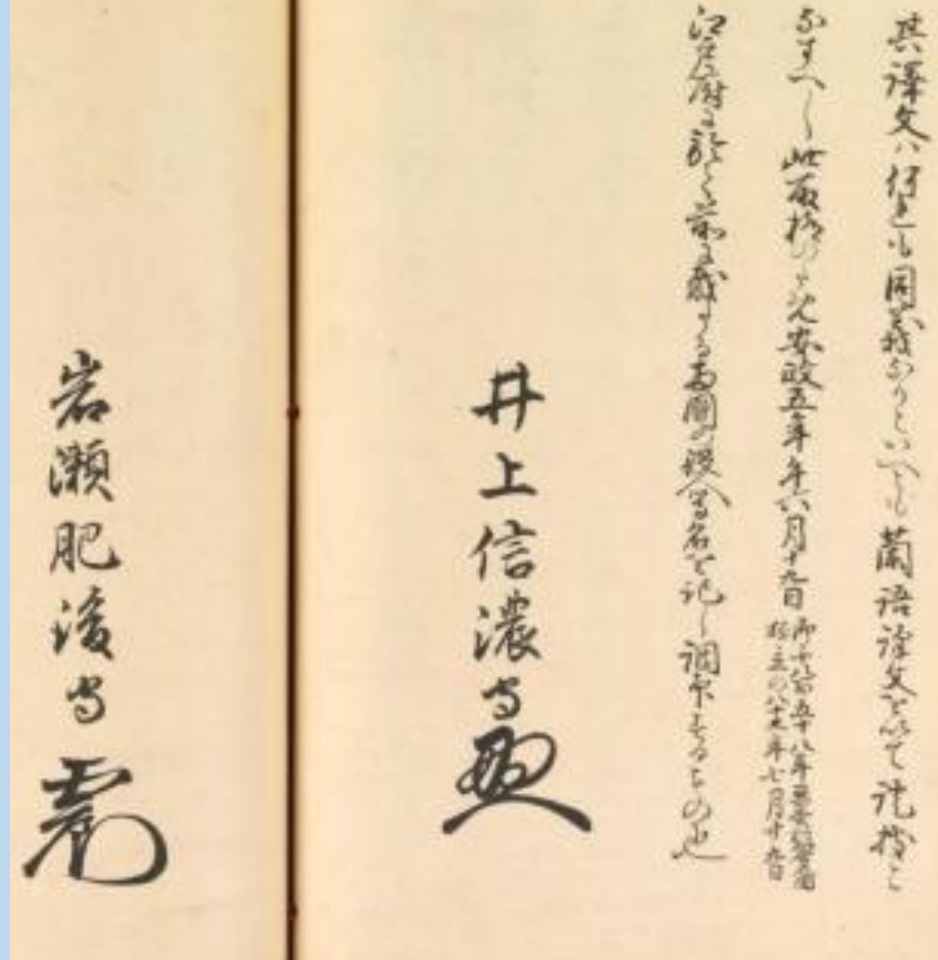
1858年6月にハリスと条約調印

天皇の勅許なしの理由

鎖国を決めた時

天皇の許可なし

万国公法（国際法）のルールにより外国奉行**井上**と海防掛（がかり）の専門官**岩瀬**



条約の署名は
井上と岩瀬の花押

1858年6月19日江戸城で重大評議
条約調印問題について 井伊大老は老中らと協議
交渉役の井上・岩瀬からの質問

「**外国との開戦**をさけるため 是非に及ばない時
は 調印してもよろしいか」

大老「その節は致し方ないが、なるべくそうならない
ようにせよ」

大老が 条約調印の責任を負う

井伊大老の英断

井伊大老像

歌碑

（御殿）に生まれ、享和3年（1850年）
に、同年6月、寛政は我々の将来を
にこのできなかった人々によって安

ence in the castle, and he became
years old. Also he became Taino,
decided and signed the Treaty of
assassinated by a group of Mito

生度根城の宝和（坂本が「桐原」
1858年）最終戦任为江戸幕府
大將軍。）同年6月、为我國将来
（息有一部分人并没有体谅他的
京都田門附近）被暗杀。他的46

이 때에나 1850년 36 세에
에는 일본-2대 동해로 37세
1850년 2월 2일 사후이다

大老
関港
井伊

一身に責負ひまして、立ち
ましし、大老ありてこそ、
開港はなりぬ

井伊文子
歌碑

一身に
責負ひまして
立ちまして
大老ありてこそ
開港はなりぬ
井伊文子

井伊大老銅像

日本の外交官

井上清直(きよなお)・岩瀬忠震(ただなり)

幕府より国家が大事である

国家のためには自分がどうなろうともかまわない
だから断然調印を主張する

あえて一身の禍害(かがい)を顧(かえり)
みざるなり 『幕末政治家』

井伊大老の外交政策

尊王攘夷論は 「攘夷だ！ 外国人ぶっ殺す！」
世論は イケイケどんどん アメリカ人は鬼だ

太平洋戦争中 鬼畜米英(きちくべいえい)

攘夷は正義である
開国論者は国賊である



下田開国博物館蔵



アメリカのペリー

井伊大老の外交政策

日本と欧米との軍事力の差を

外交交渉能力で日米友好を確保

最初にアメリカとの条約で

欧米諸国の侵略を防いだ

井伊直弼の評価

実現不可能な攘夷論の雰囲気には迷わされず
開国論に対する客観的な視野を持っていた
日本を守るべき外交の判断はなにか
条約調印に反対する天皇の意志より
強権政治の汚名があっても
外交政策でリーダーシップのある政治家

井伊大老の歴史的評価

黒船来航という、動乱期に誰が政治権力を握る
かにより歴史の流れは大きく変わる

幕末の激動が始まった安政の時代の
キーパーソンは井伊の赤鬼と言
われた井伊直弼である

(尊王)攘夷論を政治から排除

パワー外交ではなく 海軍力ゼロ

平和外交をつらぬいた人物

(国際的知識の知力で外交)



彦根城博物館蔵



条約調印は適切な選択か？

開国の花と散った





おわり

松岡外務大臣

国際連盟脱退
三国軍事同盟
大東亜共栄圏
日ソ中立条約



右洋 岡松 議参

出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

アメリカ外交

キッシンジャー外交

逆キッシンジャー外交

アメリカ外交

キッシンジャー外交

キッシンジャーとニクソンは、すでにソ連と分裂しつつあった中国を誘惑し、モスクワに対する米中戦線を構築した

逆キッシンジャー外交

ロシアと協力して中国を世界から孤立させ、増大する東南アジアに対する中国の影響力を減少させる

無能無策な幕府が

黒船の「軍事的圧力」に屈して

アメリカと不平等な条約を強いられた

鎖国のため海外の情報が

手に入らなかったという誤解

『海国図志』

最善と思われる対外政策を決定

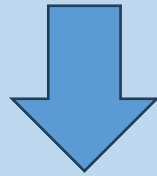
直弼 アメリカからの国書の内容を習熟

幕府の高い外交能力と、粘り強い平和的交渉
で日米関係の原点である 日米修好の関係

直弼の歴史的評価

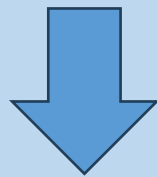
世論を無視してアメリカの

圧力に屈して条約を調印した



国際感覚を理解していた

国力の差より**外交力**により対等の交渉



五カ国との条約により 日本領土侵略を防ぐ
(アメリカ・オランダ・ロシア・イギリス・フランス)

井伊直弼が暗殺されるぐらい反対者が多く
天皇も反対していたから開国すべきでな
かった

外国を追い払っても いずれ戦争になる
日本は戦争に勝つことはできない
日本が欧米の植民地になることを防いで
外国との貿易で日本を発展させる
条約調印は列強5ヶ国を味方にした

ジョン万次郎

- アメリカのペリー提督が黒船を率いて現れたのは、1853年6月、万次郎の帰国から2年後のことでした。幕末動乱の時代の始まりです。幕府は万次郎を直参として江戸に呼び寄せます。万次郎は、開国への思いを込めて老中らの前でアメリカの事情について語りますが、有能さゆえに、水戸藩など保守的な藩からはアメリカのスパイではないかと恐れられ、ペリーの第2回目の来航時の通訳のメンバーからはずされるなど、活躍の場を失うこともありました。日本開国
- その後の万次郎は、翻訳、造船、航海、測量、捕鯨などを主な仕事として勤めますが、1860年、万次郎33歳の時、再び活躍のチャンスがやってきました。幕府は「日米修好通商条約」批准のために初の公式海外使節団をアメリカに送ることになり、この時、万次郎は随行艦「咸臨丸」に乗って通訳として、また事実上の船長として活躍したのです。咸臨丸の太平洋横断は鎖国の終わりを告げる出来事であり、船上には他に、歴史上重要な人物である勝海舟と福沢諭吉の姿がありました。帰国後も万次郎は、小笠原の開拓調査、捕鯨活動、薩摩藩開成所の教授就任、上海渡航、明治政府の開成学校(東京大学的前身)教授就任、アメリカ・ヨーロッパ渡航とめまぐるしく働き続け、71歳でその生涯を閉じました。

徳川政権の外交政策

鎖国から開国

阿部正弘

ジョン万次郎を幕臣に登用

日本人初の英会話教師

堀田正睦

外交という言葉を使用

井伊直弼

アメリカと貿易の条約を締結

- アヘンの禁輸

- 日本が欧米諸国との紛争
ときはアメリカが調停

アメリカ選択の理由

- アメリカは西欧諸国より条約の内容に日本の要求を受け入れる
- 英仏軍が大坂湾に至り京都に乗り込む
- アメリカは日本にアヘンを持ち込まない
- 西欧諸国と日本との間で紛争が起きたときはアメリカが調停する
- アメリカは平和外交で、西欧諸国は侵略的政策
- イギリスは東洋における最も侵略的で危険な国
- オランダ古くからの友好国

鎖国から開国

攘夷論者

無能な幕府が、黒船の「軍事圧力」に屈して
不平等な条約により「開国」させられた



軍事衝突を避け

幕府の高い外交能力で「開国」

日本の近代化発展のいしずえ

日米関係の原点

外交という言葉――外国との交際を簡略化
国際関係を表す言葉として使っている
当時の日本の優れた世界観もっていたから
の言葉

『海国図志』はアメリカのブリッジマンが著した
60巻本

「国立公文書館」

海國圖志

卷四十二
之四十五

漢
九五三號

二	一	八	漢書門
四	二	五	
架	九	三	
架	三	號	

庫	文	國	內
三	九	五	
四	三	二	
架	號	架	

庫	文	國	內
冊	漢	953	
冊	數	21 (12)	
冊	數		

佛英獨三語便覽
初卷

三	二	四	一	和書門
冊	冊	冊	冊	
架	架	架	架	
架	架	架	架	

庫	文	國	內
三	九	五	
四	三	二	
架	號	架	

『海國圖志』(国立公文書館)

外交という言葉――外国との交際を簡略化
国際関係を表す言葉として使っている
当時の日本の優れた世界観もっていたからの言葉
『海国図志』はアメリカのブリッジマンが著した
60巻本
1854年江戸で出版 国際知識と海防論
外交論に大きな影響

外交とは相手の国の情報を集めること
国際法と軍事力の理解が必要

領事裁判権規定

江戸時代 藩の自治権が認められていて
藩により刑罰の規定が異なっていた
日本人の考え方として

国により刑罰の規定が異なることは容認できた

江戸時代郡奉行が 農村などの訴訟を扱っていた

アメリカは日本との交渉を 対等の立場で行う

大統領書簡は直接将軍に渡す

外交官としての対応

江戸時代キリスト教徒は受け入れない

外国の商人との交渉はしない

レイカティア大学 彦根キャンパス
44期北近江文化学科



[トップページ](#)

[1年生選択学科](#)

[1年生必修講座](#)

[クラス活動](#)

[クラスの部屋](#)

› [**1年生必修講座**](#)

井伊直弼その人と生涯

井伊直弼の新しい人間像を探る

長く先の見えない人生を送った人だったが、その間もまじめに勉強等に努め、腐らなかった人で、特異なのは中川禄郎について洋学を学んでいる点である。32歳で突然、彦根藩主になってから、江戸幕府の大老という重職についています。ペリー来航から日米和親条約→日米通商条約の調印までは、将軍の跡継ぎ問題が絡んだ大仕事でした。

狭い人間関係の中で育っているので、政治をうまく動かすことには力量が不足していたのではと感じます。より多くの人の納得が得られる工夫も努力も足りなかったのではと思います。結果として桜田門外の変のような大事件になってしまった。安政の大獄も十分な根回しのような調整を行っておれば、結果は違うものになっていたかもしれないと思います。若い時の勉強も禅、武術、和歌、能狂言、茶の湯など、政治や人間に対するものが少なかったのではないのでしょうか。

これらの過程、特に埋木舎時代についての直弼を年表と古い資料を元に教えてもらいました。



めくるめく歴史絵巻 滋賀・びわ湖

彦根城を世界遺産に！

彦根城散策編



滋賀県

公益社団法人びわこビジネスビューロー

0:11 / 21:48

